

令和4年度事業報告書

社会福祉法人日吉たには会

I . 法人全般の業務

(1) 役員 (令和5年3月31日現在)

- ・ 理事 定数 7名 現在数 7名
- ・ 監事 定数 2名 現在数 2名

(2) 評議員

- ・ 評議員 定数 9名 現在数 9名

(3) 理事会の開催

①令和4年6月9日 出席者 理事 7名 監事 2名

- ・ 令和3年度事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認について
- ・ 老人保健施設はぎの里利用料等減免規程の一部改正 (案) について
- ・ 報告事項1 介護保険法第23条に基づく実地指導の実施結果について
- ・ 報告事項2 令和3年度社会福祉施設等に対する指導監査の結果について

②令和4年12月26日 (決議があったものとみなされた日)

(新型コロナウイルス感染症対策として理事会の決議の省略として実施)

理事7名全員の同意書及び監事2名全員の確認書

- ・ 令和4年度第1回資金収支補正予算 (案) について
- ・ 評議員会開催の中止と決議の省略 (案) について
- ・ 報告事項 令和4年度上半期事業報告について
(事業実施状況・半期経理状況・監事報告)

③令和5年3月9日 出席者 理事 7名 監事 1名

- ・ 令和5年度事業計画 (案) 及び資金収支予算 (案) について
- ・ 育児・介護休業規程の一部改正 (案) について
- ・ 評議員候補者の推薦 (案) について
- ・ 評議員会の招集 (案) について
- ・ 評議員選任・解任委員会の招集 (案) について
- ・ 報告事項1 介護保険法第23条及び南丹市地域密着型サービス事業者等指導要綱等に基づく運営指導の実施結果について (はぎの里ふれあいホーム)
- ・ 報告事項2 後援会からの寄贈について (ベッドサイドテーブル6台)

(4) 評議員会の開催

①令和4年6月29日 出席者 評議員 9名 監事 1名

理事 4名 (理事長・業務執行理事・理事)

- ・ 令和3年度事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認について
- ・ 報告事項1 諸規程の改正について
(組織及び運営に関する規則・経理規程・就業規則・給与規程・
職場におけるハラスメント防止に関する規定)
- ・ 報告事項2 介護保険法第23条に基づく実地指導の実施結果について
- ・ 報告事項3 令和3年度社会福祉施設等に対する指導監査の結果について

- ②令和5年1月17日（決議があったものとみなされた日）
（新型コロナウイルス感染症対策として理事会の決議の省略として実施）
評議員9名全員の同意書
- ・令和4年度第1回資金収支補正予算（案）について
 - ・報告事項 令和4年度上半期事業報告について
（事業実施状況・半期経理状況・監事報告）
- ③令和5年3月29日 出席者 評議員8名 監事2名
理事 4名（理事長・業務執行理事・理事）
- ・令和5年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について
 - ・報告事項1 育児・介護休業規程の一部改正について
 - ・報告事項2 介護保険法第23条及び南丹市地域密着型サービス事業者等指導要綱等に基づく運営指導の実施結果について（はぎの里ふれあいホーム）
 - ・報告事項3 後援会からの寄贈について（ベッドサイドテーブル6台）

（5）監事監査

- ①令和4年5月25日 出席者 監事 2名
- ・令和3年度法人業務執行状況及び財産状況について
- ②令和4年11月24日 出席者 監事 2名
- ・令和4年度上半期法人業務執行状況及び財産状況について

（6）介護保険事業所運営指導

令和5年2月3日 南丹市

対象施設：はぎの里ふれあいホーム

指導結果：文書指摘事項無し（概ね適正に運営されている）

（7）管理者による会議

①管理者会議

- ・理事長、事務局各部長、事業部各マネージャーによる月例会議を開催
- ・法人運営に関する諸課題について検討

②管理職会議

- ・管理職（部長、施設長、副施設長、マネージャー）による月例会議を開催
- ・各施設運営及び職員状況等に関する諸課題について検討

（8）新型コロナウイルス感染症対応

①新規施設ご利用者への抗原検査の実施

- ・特別養護老人ホーム、老人保健施設、ケアハウス、グループホームに入所（入居）の際に抗原検査を実施

②新型コロナウイルスワクチン接種

4回目接種：令和4年8月中旬から9月上旬

- ・特養はぎの里、老健はぎの里、特養オアシスで実施

- ・接種対象 特養・老健・ケアハウス・グループホームの接種希望のご利用者
高齢者施設職員（職員、派遣職員、清掃・厨房委託業者職員）の希望者
- 5回目接種：令和4年12月中旬から令和5年2月上旬
- ・特養はぎの里、老健はぎの里、特養オアシスで実施
 - ・接種対象 特養・老健・ケアハウス・グループホームの接種希望のご利用者
高齢者施設職員（職員、派遣職員、清掃・厨房委託業者職員）の希望者

③感染の状況

- ・職員の感染状況

令和4年4月	5名	7月	6名	8月	8名	9月	2名	
11月	10名	12月	28名	令和5年1月	7名			計66名

- ・委託業者職員の感染状況

令和4年8月	1名	11月	1名	計	2名
--------	----	-----	----	---	----

④事業への影響

【令和4年4月】

- ・特別養護老人ホームはぎの里（短期入所）
ご利用者8名、職員5名が感染
4月2日～20日まで特別養護老人ホームはぎの里短期入所の新規利用中止
4月4日～6日まで老人保健施設はぎの里通所リハビリテーション休業

【令和4年7月】

- ・老人保健施設はぎの里入所事業
職員3名が感染（ご利用者の感染者なし）
7月16日～25日まで新規利用中止

【令和4年8月】

- ・老人保健施設はぎの里通所リハビリテーション
職員2名が感染
8月10日～14日まで休業

【令和4年11月】

- ・老人保健施設はぎの里入所事業
ご利用者84名、職員18名が感染
11月16日～12月25日まで新規利用中止

【令和4年12月】

- ・認知症対応型共同生活介護事業所はぎの里オアシス（グループホーム）
ご利用者12名、職員9名が感染
12月7日～令和5年1月2日まで新規利用中止
- ・老人保健施設はぎの里通所リハビリテーション
職員3名が感染
12月13日～16日まで休業
- ・特別養護老人ホームはぎの里オアシス
ご利用者5名、職員2名が感染
12月22日～令和5年1月9日まで新規利用中止

- ・特別養護老人ホームはぎの里（長期入所・短期入所）

ご利用者12名、職員2名が感染

12月30日～令和5年1月22日まで新規利用中止

⑤対面による面会スペースでの面会及びガラス越し面会の実施

- ・令和4年5月24日～7月14日実施
- ・令和4年10月20日～11月16日実施
- ・令和5年3月20日～実施
- ・オンライン（ビデオ通話）による面会は常時実施

(9) 介護事故

- ・令和4年度 介護事故件数 44件（令和3年度 53件）
内訳：骨折18件、服薬関係11件、外傷8件、送迎中の事故8件、
離脱1件、その他3件

(10) 南丹市介護相談員による相談事業

令和4年度も新型コロナウイルス感染症感染防止対策として受け入れ中止

(11) 京都府・南丹市等から依頼のあった委員会等への参画

- *南丹市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
- *南丹市地域福祉計画推進委員会
- *南丹市民生児童委員推薦会及び南丹市民生児童委員推薦会日吉準備会
- *南丹市高齢者虐待防止ネットワーク会議
- *南丹市介護認定審査会

II. 法人本部事務局

1. 総務部

(1) 人材確保・定着の取り組み

①令和4年度採用・退職数

採用 正職員5名 准職員7名 臨時職員11名

退職 正職員7名 嘱託職員1名 准職員3名 臨時職員21名

正職員任用 5名

②新卒採用活動

新卒求人サイト「あさがくナビ」による採用活動

あさがく就職博参加

・令和4年5月18日 京都会場（医療・福祉特集）

・令和4年9月22日 京都会場

・令和5年2月7日 就活準備編京都会場（医療・福祉特集）（令和6年採用）

採用者なし

③高校生求人活動

令和4年8月 南丹地域の高等学校に求人票送付
応募者無し

④南丹エリア福祉就職説明会（京都府主催：京都ジョブパーク福祉人材コーナー）

令和4年10月15日 サンガスタジアム会議室
採用者無し

⑤福祉職場就職面接会（ハローワーク園部主催）

令和4年10月27日 ハローワーク園部
採用者無し

⑥南丹市福祉職場就職フェア（南丹市主催）

令和4年12月3日 南丹市国際交流会館コスモホール
採用者1名（就職フェアで相談後、ハローワークを通して応募）

⑦FUKUSHI就職フェア京都丹波（事務局：京都府南丹保健所）

（京都丹波福祉職場応援プロジェクト促進会議・京都子育て文化推進協議会主催）

令和5年1月28日 ガレリアかめおかコンベンションホール
採用者無し

⑧異動意向調査の実施

第1回：令和4年6月20日～6月30日

第2回：令和4年12月9日～12月20日

⑦定年退職者及び有期雇用職員に対する意向調査の実施

令和5年1月20日～1月30日

（2）永年勤続表彰の実施【令和4年7月8日】

10年勤続者 6名（感謝状・金一封の贈呈）

20年勤続者 2名（感謝状・金一封の贈呈）

（3）職員の処遇改善の取り組み

①介護職員処遇改善加算

対象職員 介護職員

加算総額 48,287,330円

改善内容 基本給・職務手当・役職手当の昇給原資

令和4年度正職員平均昇給額 4,367円（昇給率1.79%）

令和4年度准職員・臨時職員 最低時間給970円（30円昇給）

②介護職員等特定処遇改善加算

対象職員 介護職員及び年収440万円未満のその他の職種職員

加算総額 17,686,190円

改善内容 一時金として支給（令和4年9月・令和5年1月・5月）

経験・技能のある介護職員 208,000円～273,000円

他の介護職員 84,000円～208,000円

その他の職種 51,000円～102,000円

③介護職員処遇改善支援補助金（令和4年2月～9月）

対象職員	介護職員及び管理職及び宿直職員を除く全てのその他の職種職員
補助金総額	6,407,847円
改善内容	令和4年3月に一時金支給 正職員・嘱託職員 11,200円 准職員・臨時職員 月平均勤務時間×35円相当額 令和4年2月～9月勤務実績に基づく処遇改善手当支給 正職員・准職員 月額5,600円 准職員・臨時職員 月間勤務時間数×35円

④介護職員等ベースアップ等支援加算（令和4年10月～）

対象職員	介護職員及び管理職及び宿直職員を除く全てのその他の職種職員
加算総額	4,669,090円
改善内容	令和4年10月～令和5年3月勤務実績に基づく処遇改善手当支給 正職員・准職員 月額5,600円 准職員・臨時職員 月間勤務時間数×35円 令和5年5月に一時金支給（令和4年10月～令和5年3月勤務実績） 正職員・嘱託職員 2,100円 准職員・臨時職員 期間中の常勤換算数×2,100円

（4）職員の健康管理

①職員健診・頸肩腕障害腰痛健診1回目

- ・令和4年8月22日～24日
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、健診会場を広く使って実施
- ・8月22日、23日は日吉、24日は園部オアシスで実施

②夜勤従事者健診・頸肩腕障害腰痛健診2回目

- ・令和5年2月20日～21日
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、健診会場を広く使って実施
- ・2月20日、21日午前は日吉、22日午後は園部オアシスで実施

③ストレスチェックの実施

実施期間	令和4年11月7日～11月20日
実施者数	174名 高ストレス者 18名（10.3%）
令和4年度より実施業者を変更	
調査項目を57項目から80項目に追加し、詳細な分析を実施	

（5）衛生委員会の開催

毎月開催 各回テーマを決めて検討 職員の時間外勤務状況等も確認

2. 経理部

(1) 安定した収支に向けた取り組み

毎月経理部会議を開催し、その中で収支状況の確認と近年値上りが続いている光熱費、特に電気代の料金を確認し前年度との比較を行い、それらの結果を管理職会議で報告し、法人全体での節約に取り組みました。

また、毎月の会計事務所による監査の報告書を確認後、管理職へ回覧を行いました。

(2) 令和4年度の収支

収入では、新型コロナウイルス感染症によるクラスターが複数の事業所で発生した事による影響を受けましたが、補助金及び助成金を活用する事により大きな減収までとはなりませんでした。

支出では、エアコンや給湯器等の故障による更新が目立ちました。

(3) 補助金・助成金申請

○新型コロナウイルス感染症流行下における介護サービス提供体制確保事業

(新型コロナウイルス感染症クラスターによる施設内療養費及び消耗品等のかかり増し費用に対する助成金)

○京都府社会福祉等省エネ推進緊急対策事業 (エアコン購入に対する補助金)

○京都府原油価格・物価高騰対策緊急支援事業 (光熱費及び燃料費に対する助成金)

(4) 各保険の見直し、更新

9月 自動車保険更新 (公用車 22台)

3月 他、継続が必要な保険の更新

(雇用管理賠償責任保険、役員賠償・医師・看護師賠償責任保険

業務災害総合保険、事業活動総合保険介護保険・社会福祉事業者総合保険)

3. 企画部企画課

(1) 法人主催行事の中止 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため)

① 9月はぎの里敬老祝賀式

法人全体での式典は中止し、施設単位で実施

来賓招待なし

祝賀対象33名

敬老祝品贈呈：京都府より新100歳4名

京丹波町より新100歳1名、米寿1名

南丹市より米寿10名

法人より白寿4名、卒寿14名

② 10月はぎの里秋祭り中止

域住民との交流を目的とした大規模行事は、感染リスクが高いため中止

後援会からは、全会員へ中止のお知らせをはがきで行う。

(2) 地域貢献

①災害時における福祉避難所設置協定の締結

協定による設置計画事業所

- ・特別養護老人ホームはぎの里
- ・特別養護老人ホームはぎの里オアシス

②おれんじスポットひよし（認知症カフェ）送迎協力

関係機関実行委員会形式

奇数月1回（5月・7月・9月・11月・1月送迎なし・3月）

場所 いきいきオアシス日吉 コミュニティルーム

少人数制とし、1回4名程度で開催されました。

③興風交流センターデイサービス事業送迎協力〔愛称 田原なごみ会〕

（南丹市人権政策課）

南丹市・南丹市社協・はぎの里が企画内容を持ち寄り実施しています。

南丹市社協と役割分担し、迎えのみ月2回実施。1回の迎えは、4～5名

6月 外食とボウリング 11名送迎

8月・9月・12月～2月 感染拡大予防のため送迎辞退

④まちカフェサロン送迎協力（まちカフェモーニングの会・胡麻地域対象）

毎月第2日曜 10時～12時 参加者5～11名程度

場所 上胡麻区民センター

4月・12月～2月 感染拡大予防のため送迎辞退 7月～9月 サロン中止

⑤歌声喫茶送迎協力（わっかっか！・殿田地域対象）5月～新規協力

毎月第1日曜日 14時～15時30分 参加者5～8名程度

8月中止、9月送迎なし、12月～2月 感染拡大予防のため送迎辞退

⑥地域清掃活動

- ・特養正門前～遊 you ひよし までの歩道及び車道のゴミ拾い（毎月）

実施者 管理職・居宅介護支援専門員・施設管理員等

- ・横田区環境美化作業に参加（4月・7月・3月）

参加者 オアシス職員（管理職・事務職・相談員）

⑦殿田中学校職業体験学習

11月15日～17日の3日間 生徒2年生2名 デイサービスで受け入れ

(3) 令和4年度介護福祉士実務者研修通信通学課程

会場 南丹市国際交流会館

受講者なし

介護福祉士合格者 3名（内、本研修修了者1名）

(4) きょうと福祉人材育成認証制度 認証更新

令和元年度初認証、令和4年度認証更新を受ける。

認証期間は令和9年度までの5年間

(5) 道路交通法改正対応

- 4月1日 全事業所対象 酒気帯び確認記録簿による記録保管
10月1日 全事業所対象 アルコール検知器を用いた酒気帯び確認の義務化準備
しかし、半導体等の不足による検知器が一般に入荷しにくいため義務化は延期となる。

(6) はぎの里後援会

- 6月 2日 監事監査（各監事宅訪問）
6月 6日 三役役員会実施
6月18日 役員会（幹事会）
6月30日 総会 書面議決
例年実施している会員集合による総会を書面決議とし全議案が承認
・令和3年度 事業報告及び会計決算報告
・令和4年度 事業計画（案）及び会計予算書（案）
2月20日 三役役員会 法人への備品提供について
3月 8日 法人への備品寄贈 ベッドサイドテーブル6台

4. 企画部介護保険課

(1) 京都府による老人保健施設無料低額調査中止

毎年実施ですが、新型コロナウイルス感染症予防のため、訪問調査は中止され、書面のみの調査となりました。

(2) 資格研修修了状況把握

- ・京都府介護支援専門員更新研修修了 課程Ⅰ 1名（グループホーム）
- ・認知症介護実践者研修修了（人員要件研修） 6名
（小多機3名・グループホーム1名・デイサービス1名・特養オアシス1名）
- ・認知症介護基礎研修修了（無資格者の法定研修）9名
（デイサービス3名・通所リハビリ2名・グループホーム1名・特養3名）
- ・認知症対応型サービス事業管理者研修修了（人員要件研修）1名（小規模多機能）

(3) 介護保険全事業

①令和5年度京都府及び南丹市介護保険サービス事業者等に係る集団指導

新型コロナウイルス感染症予防のため動画及び資料配付による実施。

②指定居宅サービスに要する費用の額の算定に関する基準等の一部改正への対応

令和4年10月1日から新設された介護職員等ベースアップ等支援加算算定契約書別紙・重要事項説明書等の変更

(4) 新規事業開設

4月1日 京都府指定 はぎの里訪問リハビリテーション事業所

(5) 事業所指定更新（6年ごと）

9月1日 南丹市指定更新 はぎの里デイサービスセンター

(地域密着型通所介護)

(6) 居宅介護支援事業2事業所の統合

9月30日 居宅介護支援事業所はぎの里オアシス 事業休止

10月1日 はぎの里ケアプランセンターに事業統合

(7) 南丹市介護保険事業運営指導（旧 実地指導）

2月3日 対象事業 はぎの里ふれあいホーム（小規模多機能型居宅介護）

結果 文書指摘無し（概ね適正に運営されている。）

Ⅲ. 事業部技術専門室

1. 介護部

(1) 介護職員としての知識技術向上

新型コロナウイルス感染症の影響により、全体研修会や各事業所における研修会への相互参加は実施できませんでした。その代替として、毎月開催している介護部会議内において、介護技術における勉強会を実施しました。次年度は、その勉強会の内容を更に深め、介護職員全体の知識技術向上に努めます。

(2) 各種関係機関との連携による人材確保により、効果的な介護職員の採用

インターネット媒体での求人や知人の紹介等により幅広く視野を広げた求人活動を行いましたが、フルタイム職員獲得に至らず効果的な採用には至りませんでした。

(3) 離職防止・働き方改革への対応

毎月、各事業所チーフ（1号館・2号館・オアシス各担当）3名、マネージャー、計4名にて人員状況の情報共有とともに、人事に関する検討会議を実施しました。

管理職会議と連携し法人内での人員体制を把握し、効率的な人員配置をおこなうよう、人事異動や兼務を実施しました。

下半期に介護部チーフ3名の配置転換を行ない、多角的な視点での人材育成や人員配置に取り組めるよう体制整備を行ないました。

2. 看護部

(1) 人材確保と定着への取り組み

看護協会、人材紹介業者等の関係機関との連携をもとに人材確保に努めました。

慢性的な看護師不足や世代交代を含めた退職があったことから、厳しい勤務状況となりました。また、各事業所の指導職配置が課題となっており、今後、リーダーシップがとれる人材の確保、育成、さらに定着に向けた取り組みを検討して人員体制を整えます。

(2) 研修会の実施

専門性を高め、利用者の健康、生活面の多様なニーズに対応するため研修会を計画しましたが、新型コロナ感染対策を優先したことから実施には至りませんでした。

3. 相談支援部

(1) サービスの質の向上

今年度の活動は年間を通じて非常に消極的なものになりました。

その原因として、ほとんどのメンバーが各事業所の窓口であり連絡調整の役割を担っていることから、新型コロナウイルス感染症の対応に追われたことや、感染症予防のため事業所間を跨いでの活動を控えたことが挙げられます。

次年度はそれらの反省を踏まえ、会議の定例化とオンライン等の有効活用も行いながら、メンバー個人が向上できる活動を計画していきたいと思えます。

(2) 法人内の連携

各事業所の相談員や介護支援専門員が集まった相談支援部では、対人援助やサービス調整を行う中で、時に壁にぶつかり一人で悩みを抱える状況に陥ることがあります。メンバーの抱える悩みを共有し解決策を一緒に考え、メンバーが孤独にならないことも対人援助を担う相談支援部の役割です。

令和4年度はメンバーの悩みの共有や、法人内の連携が不足していた状況です。

次年度は、改めて、各事業所やメンバーの課題や悩みを共有し、解決するために知恵を出し合ったり、専門的な技術や知識を教え教わる中で切磋琢磨しながら相談支援部内の連携が一層できるように努めます。

4. 研修担当部

(1) 法人職員基礎（新人）研修

第1回 4月1日・5月11日の2日間 受講者7名

第2回 10月7日・11月11日の2日間 受講者6名

(令和3年度中途採用者も含む)

研修内容 法人の概要及び組織・理念・方針 他11講義

(2) 指導職研修

- ・インターネット研修「チーム及び組織力向上研修」
研修期間 8月30日～3月31日 受講者16名
- ・11月14日 福祉リーダーの極意を学ぶセミナー 受講者1名
- ・虐待防止研修（オンライン研修）
11月22日 2拠点で実施 受講者17名
研修テーマ 不適切なケアから考える
- ・メンタルヘルスオンライン研修について（衛生委員会共催）
1月13日 2拠点で実施 受講者17名
研修テーマ メンタルヘルス不調者への関わり方
京都府令和4年度職場のメンタルヘルス等向上事業により実施

(3) 中堅職員研修（対象 5年以上の経験）

インターネット研修「新人を受け入れる前に押さえておきたい先輩講座」
研修期間 8月30日～3月31日 受講者7名

(4) 認知症研修

認知症介護実践者研修修了者の活動の場として、認知症研修の計画から講師までを担当して実施する。

内容 講義 「認知症の理解を支援につなげる」（計画担当委員作成）
2月～3月 3拠点で実施 受講者61名

(5) インターネット研修（お茶の水ケアサービス学院・YouTubeなど）

新型コロナ感染対策のため外部研修に参加できなかったため積極的に勧奨した。

4月受講2名	5月受講42名	6月受講10名	7月受講7名
8月受講42名	9月受講26名	10月受講88名	11月受講52名
12月受講0名	1月受講0名	2月受講40名	3月受講26名

お茶の水ケアサービス学院は、下記の多種講義から選択し受講が可能です。

専門研修フルバージョン133講義

15分研修シリーズ116講義（フルバージョンの一部）

オンライン研修 アーカイブ配信55講義

その他 30分研修シリーズ95講義・介護塾45講義からも選択可能

(6) 資格取得支援

①介護支援専門員実務研修受講試験対策勉強会

参加者4名 全7回で4月から月1回開催

（8月のみ新型コロナウイルス感染症予防のため中止）

②介護福祉士受験対策

受験者個別対応で希望者には参考書・受験対策講座斡旋など

対象 4名（概数）

(7) 研修担当部会議 月1回開催

- ①年間研修計画の策定検討
- ②認知症研修について
認知症介護実践者研修修了者の活躍の場として、修了者による研修計画検討
- ③令和4年度法人内事業所単位研修会（勉強会）年間計画【予定】一覧を配布
研修計画の共有により、事業所間で相互に受講できる仕組み
- ④事業所サービス評価について
- ⑤指導職対象研修について（メンタルヘルス含む）
- ⑥法人基礎研修・新人育成計画の実施について
- ⑦中堅職員研修について
- ⑧資格取得支援について（ケアマネ受験対策・介護福祉士受験対策など）
- ⑨きょうと福祉人材育成認証制度実施状況について
- ⑩インターネット研修実施要項に基づく研修について
- ⑪認知症介護基礎研修（法定研修）について
- ⑫虐待防止研修について
- ⑬外部研修の計画的受講について

(8) 事業所サービス評価の実施

適正なサービスの提供に向けて、法人内の各事業所のサービス評価を実施しました。法人の理念に始まり、職員倫理綱領に基づいた各事業のサービスが提供されているかを確認し、定期的に利用者サービスが適切かを意識した運営となるよう組織的に取り組んでいます。

評価委員は、管理職・指導職・総合職の3名体制とし、評価対象事業所所属以外で選任しています。

評価方法は、サービス評価チェックリストに基づくヒアリング・根拠資料・記録などの確認を行い、委員コメントをつけて今後活かすよう促しています。

実施回数 事業所ごとに年1～2回

IV. 特別養護老人ホームの経営

(1) 利用実績

①指定介護老人福祉施設（長期入所）定員50名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	48.9	48.0	46.5	48.5	49.1	48.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	50.0	48.9	48.5	46.5	46.0	46.8	48.0

②短期入所者生活介護（ショートステイ）定員10名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数	296	274	282	282	283	252	
1日平均利用者数	9.9	8.8	9.4	9.1	9.1	8.4	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用者数	268	285	309	210	248	250	
1日平均利用者数	8.6	9.5	10	6.8	8.9	8.1	8.8

③長期入退所状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	7	2		7	1		
退所先	3	3	1			11	

(2) 実習・その他受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) ボランティア等受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

令和4年度も、感染症対策を実施しながらのサービス提供となりました。

体調の変化で感染の有無を早期に発見するために看護・介護職によるご利用者の健康観察を行い、職員は検温・手洗いうがい、消毒などの基本的な感染予防対策を徹底するとともに、必要に応じ検査を実施しました。しかし、十分に防ぐ事が出来ず、新型コロナウイルス感染症クラスターが4月と12月に発生し、ご心配・ご迷惑をおかけする事態となりました。

マスクを着用しての日常生活が数年経過しましたが、この間も多職種が連携し、ジェスチャーや筆談など、ご利用者が理解できる方法を模索しながら介護計画に沿った介護を提供し、サービスの質の向上に向け取り組んできました。食事では、ご利用者個々に合った食事形態への変更や栄養補助食品の提案、必要に応じたミールラウンドの実施に

より、口から食べることで栄養状態を維持するための支援も行いました。

面会については、新型コロナやインフルエンザの流行を考慮しながら法人で制限の緩和の検討を行いました。直接の面会は叶わず、一定期間の亚克力板越しの面会とオンライン面会となりました。面会ができない中でしたが、職員は居室内や身の回りの清潔を意識した対応を心掛けました。

ご利用者の様子を十分にお伝えすることができない状況が続き、ご家族にはご不安とご心配をおかけすることとなり、申し訳ございませんでした。

(5) 安定した収入確保

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年間稼働率は1日平均56.8人（長期入所48.0名短期入所8.8名）で、稼働率は前年度より大きく落ち込む結果となりました。

二度の新型コロナ感染症のクラスター発生や施設内の感染拡大防止と予防のために年間を通して長期入所の空床利用中止と短期入所の一部制限を行いました。ご利用者・職員の感染予防を最優先とし、いかに収入を確保するかが今後の課題となっています。

また、ここ数年待機者の数が減少しているため、居宅介護支援事業所等、関係機関への空床の情報提供を行い、入所希望者の確保に努めます。

支出では、今年度も設備の老朽化による更新（空調機器や給湯器）がありました。光熱費の（特に電気料金の高騰に対して）節約は上半期より継続して取り組んでおり、今後も法人全体での取り組みとして継続します。

(6) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年間計画の研修は予定通り実施出来ませんでしたが、随時感染症に関する研修を実施したほか、全職員がいつでも受講できるインターネット研修の環境が整っており、各職員で視聴しています。

また、ユニットケアの充実に向けては、ユニット運営計画が実施出来ない状況であったため、感染状況を見ながらではありますが、次年度は近隣施設との交流の機会を再開し、コロナ禍での様々な取り組みについての情報交換を行いたいと考えています。

日々の介護の中で発生した事故（ヒヤリハット）について、ユニットケア会議で報告・検証を行い、対応を再確認し再発防止に努めました。

今後の課題として、職員の介護技術の平均値のレベルアップがあげられます。職員数が充足していない状況ではありますが、研修参加や現場での学び、個別指導に取り組むたいと考えています。

(7) 地域貢献

感染症を持ち込まないための対策として、令和4年度も介護相談員や実習生、ボランティアの受け入れは行わず、地域へ出向く機会もありませんでした。

今後、新型コロナウイルス感染症の取り扱いが変更となります。それに伴い、今後地域貢献の機会が再開される事に期待しています。

V. 老人保健施設の経営

(1) 利用実績

①介護老人保健施設（長期入所）定員100名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	89.7	91.1	90.0	89.4	91.6	91.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	90.9	92.1	90.8	90.4	91.7	89.2	90.7

②短期入所療養介護（ショートステイ）長期空床型

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数	15	4	11	49	8	0	
1日平均利用者数	0.5	0.1	0.4	1.6	0.3	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用者数	0	4	0	9	1	29	130
1日平均利用者数	0	0.1	0	0.3	0.0	0.9	0.4

③長期入退所状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	11	50	0	0	0	0	0
退所先	8	34	15	0	0	2	0

(2) 実習・その他受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) ボランティア等受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

新型コロナウイルス感染症の影響により、11月から12月において、2・3階両フロアにおいてクラスターが発生し102名（ご利用者84名・職員18名）の感染となりました。約1ヶ月における感染対策を実施し、ご利用者には色々のご負担をお掛けしましたが、重症化されるご利用者は見られず経過しました。

また、面会や行事を制限する必要性があり、ご利用者の生活に大きな支障をきたしました。その中で、出来る限りご利用者やご家族の声を傾聴し、生活支援を行いました。

面会に関しては、希望される方が多く、代替手段としてオンライン面会に取り組み、さらに、新型コロナウイルス感染症が減少した期間には、1階に面会スペースを設置し、対面での面会を実施しました。日々の様子や体調の変化は、2か月に1回近況報告の書面を作成し定期的にご家族へ報告しました。

介護職の取り組みとしては、新型コロナウイルス感染症対策の中での限定した内容となりましたが、花の苗植え・七夕飾り・夏祭り・敬老祝賀会・運動会・節分行事などの四季を感じていただける行事を実施しました。

医療面では、ご利用者の健康状態や生活が維持できるよう、系統的な観察を行い、変化を捉え、異常の早期発見と早期治療が受けられるよう努めました。また、クラスター発生時の対応においては、施設医師や南丹保健所と連携し、発熱、呼吸器症状など詳細な観察、ケアを行うことで、重症化防止に努めました。

リハビリの取り組みとしては、ご利用者の身体機能に応じたトレーニングを行い、ADLの維持向上に努めました。安全かつ安心した日常生活を過ごすことができるように、さまざまな生活場面での過ごし方を他職種と協同で検討することもできました。しかし、新型コロナウイルス感染症のまん延によりやむを得ずトレーニングを行うことができない期間が長くありました。次年度は人員配置を含めた業務の細分化を図り、感染症対策の強化と切れ目のないリハビリテーションの提供を行うことができる体制づくりに努めます。

栄養の取り組みとしては、地元の米や野菜を使用し季節感のある食事の提供に努めました。物価が高騰する中、出来るだけ食事の質を落とさない様に工夫を凝らしながらの食事提供に努めました。また、食事の観察や多職種との情報交換を実施し、各ご利用者の栄養状態、嚥下状態、嗜好などを踏まえた食事の調整を行いました。

(5) 安定した収入の確保

今年度の利用実績は、長期短期合わせ1日平均91.1名（前年度比－0.8名）でした。前年度と比較し、0.8名の減少となり、目標（94名）を達成することが出来ませんでした。要因としては、体調不良による入院者増加や他の介護保険施設への入所が重なったことやコロナクラスターによる入所制限を必要とする期間が年間を通して約2ヶ月間あったことが挙げられます。

また、本来の老健の役割である在宅復帰に向けた取り組みは、在宅復帰・在宅療養支援機能に対する点数が、23点～43点（40点以上が在宅復帰・在宅療養支援機能加算の対象）であり安定的な点数確保に至らず、加算算定には至っていません。次年度中には40点以上の点数確保できる見込みがあり、加算型への移行を検討しています。

短期入所療養介護については、1日平均0.4名（前年度比＋0.2名）の利用で増加傾向にあり引き続き調整に努めます。

(6) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症の影響により、老健会議を二部構成として少人数での研修を実施しました。研修内容は、インターネット配信研修やYouTube動画を活用することで当日参加できなかった職員が個人で受講できるよう配慮しました。また動画だけでなく、興味関心が持てるように個人ワークも取り入れました。

法人認知症研修では、職員が研修内容を企画し、認知症の基礎について再確認を行い、学びを深めました。

接遇に関する取り組みは、面会制限による閉鎖的な環境でのサービス提供となってい

ることから、各職員が自身の接遇について振り返る機会を作りました。改善が必要な職員に対しては、指導職による面談を実施して言葉使いや関わり方の指導を行いました。

(7) 地域貢献

地域貢献による取り組みとして、施設周辺の清掃活動や除雪作業を8回実施しました。

VI. ケアハウスの経営

(1) 利用実績

①ケアハウス入居状況 定員25名（1人居室11室・2人居室7室） 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月初入所者数	19	19	19	21	22	22	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初入所者数	21	22	21	22	22	22	252

②ケアハウス入退居状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	5	2					
退所先		1	1			2	

③第二ケアハウス入居状況 定員32名（1人居室26室・2人居室3室） 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月初入所者数	27	28	29	30	30	31	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初入所者数	30	29	29	29	30	31	353

④第二ケアハウス入退居状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	7	1					
退所先	1	1	1			2	1

(2) ボランティア等受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) 安心して自立生活できる“住まい”としてのケアハウス

目配り、気配り、心配りで、日常の関わりからご利用者の体調把握に努めました。早め早めの対応を心掛け、ご家族との連携にも努めました。

ご利用者の超高齢化、介護の重度化がみられるため担当ケアマネジャーとの連携を強

化して、状況に応じた介護サービスの調整をご利用者・ご家族の意向も踏まえて行いました。

また、“自活力”（自立して生活できる能力）の維持のため、ご自身のことはご自身でできるように声掛けを継続し、そのような声掛けをする理由の丁寧な説明に取り組みました。

心身ともに介護が必要となっておられるご利用者に対し、次の居場所に向けての相談支援を行なうと同時に、身体介護（排泄対応、入浴対応、食事対応）も行ない、日々の生活を支援するケースもありました。

ご利用者の平均年齢が上がり、医療ニーズも高まっており、今後も目配り、気配り、心配りを基にした気付きで医療連携も強化していきます。

（４）サービスの質

言葉遣いやご利用者に対する態度が適切かどうか、虐待及び身体拘束等防止の観点から月1回のケアハウス会議での振り返りを継続しました。

“自活力”の維持を目標とした声掛け支援を行なうことで、ご利用者に対して威圧的に感じられる可能性が高まることから、日常の言葉遣いについて、職員個々が細心の注意を払うように努めました。

職員同士での意見交換を行ない、ご利用者のケアハウスでの暮らしが支えられるように努めました。職員一人で勤務する時間が多いため、気付きを共有できるように引き続き意見交換を重視し、サービスの質の向上に努めていきたいと考えます。

（５）安定した収入の確保

ご利用者のケアハウスでの様子をご家族にお伝えするケアハウス通信を年間計画通りに発行し、情報の発信に努めました。

入居相談の経路としては、担当ケアマネジャー、病院の地域連携室からの紹介、法人内事業所からの紹介が多くを占めています。入居待機者の確保のために、入居相談には丁寧に応じるように努め、必要な情報収集を行ない、どのようにすればご入居後に安心した生活を過ごしていただけるのかの視点で取り組みました。

空室を抱える状況でしたが、ケアハウス7名、第二ケアハウス8名の入居があり、空室解消となりました。今後も、空室となった際には、早期に入居につなげられるように努めていきます。

（６）職員の資質向上

インターネット配信を活用した研修をケアハウス会議に合わせて取り組み、資質向上に努めました。

（７）地域貢献

南丹市内に縁のある新規入居ご希望者に対しては、可能な限りご入居いただけるよう関係機関と調整を行い、積極的な受け入れを行ないました。

施設周辺の道路の清掃活動に参加しました。

Ⅶ. 在宅関係事業

1. 通所リハビリテーション

(1) 利用実績 利用定員30名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	527	605	606	599	520	615	
1日平均	20.3	23.3	23.3	23.0	19.3	23.7	
稼働率(%)	67.6	77.6	77.7	76.8	64.2	78.8	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	624	616	539	494	549	608	6,902
1日平均	24.0	23.7	20.0	20.6	22.9	22.5	22.2
稼働率(%)	80.0	79.0	66.5	68.6	76.3	75.1	74.0

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
明治国際医療大学 看護学部 「看護総合・統合実習」	7/12(火)～7/14(木)	15(15)名
明治国際医療大学 看護学部 「人々の生活を知る実習」	9/14(水)～9/15(木)	12(12)名

(3) ボランティア等受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

新型コロナウイルス感染症の影響で制限がある中でのサービス提供でしたが、感染予防対策を徹底し、ご利用者に安心して楽しんでいただける内容を日々検討して取り組みました。

外出を伴う「誕生日会」や「外食会」は施設内で開催し、誕生日会はケーキと色紙でお祝いしました。外食会の替わりには、いつもと違う雰囲気ですごしていただけるように近隣のレストランから弁当を配達してもらい食べていただきました。

そのほか、新年会では日替わりで趣向をこらした鍋料理で楽しんでいただきました。感染防止による三密を避けるため、ご利用者同士が一定の距離を保った状態でのレクリエーションが中心となりましたが、クイズや行事を考え、ご利用者満足に努めました。カラオケ機器のコンテンツ増加を検討し、取り入れられるよう工夫しました。

ご利用者の意見に耳を傾け、トイレに消毒液を設置しました。

サービス担当者会議は、新型コロナウイルス感染症対策のため限られた時間や環境での開催となりましたが、ご利用者、ご家族、担当ケアマネジャーとの情報交換や交流を図り信頼関係の構築に努めました。

(5) 安定した収入の確保

新型コロナ感染症関連や大雪の影響による営業休止が年間通して9日間見られました。また、1月～2月にかけて大雪の影響で自己欠席される方も多くありました。そのほか特養入所や入院、他界される方も多く見られ、年間の稼働率は74.0%（1日平均22.2人）となり、目標を達成することが出来ませんでした。

各居宅介護支援事業所へ空き状況を定期的に報告し、新規利用者の獲得や増回を目指しましたが、大きな効果を得ることは出来ませんでした。

コスト削減については、業務の効率化を図ると共に、スタッフ会議において現状を伝え、できる限りの経費削減に努めました。

(6) 職員の資質向上

老健会議の研修会への参加やインターネット研修の実施により資質向上に努めました。昨年度に引き続き、研修に参加できなかった職員には後日受講できる体制を整えました。

接遇・マナー向上の取り組みとして、老人保健施設で実施する接遇チェックリストを活用し接遇向上に取り組みました。また、法人内サービス評価委員からの評価を踏まえて、各職員へ改善箇所の周知を行ない日々のサービス向上に努めました。

(7) 地域貢献

例年実施している近隣保育所との交流は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため実施できませんでした。

2. 訪問リハビリテーション

(1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用実人数	0	1	1	2	2	3	
訪問延回数	0	4	8	16	16	26	
介護給付	0	4	8	8	10	8	
介護予防	0	0	0	8	6	18	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
利用実人数	6	5	5	6	5	6	42
訪問延回数	52	26	30	38	38	50	304
介護給付	16	12	10	18	16	22	132
介護予防	36	14	20	20	22	28	172

(2) サービスの質

今年度の満足度調査は訪問リハビリテーションのみ利用中のご利用者3名に実施し

ましたが、職員の対応、訪問回数、リハビリテーションの内容ともにほぼ満足いただけているという回答でした。現状では訪問件数も少ないため、きめ細やかな対応ができていると考えています。

ケアマネジャーとの連携により、訪問日の調整、他事業所との調整を行いました。

また、リハビリテーション内容の質の向上として、研修や参考資料、他事業所の取り組みなどをもとに、多くの知識を得ることができるよう努めます。

(3) 安定した収入の確保

今年度より事業を開始し、上半期はご利用者獲得に苦戦しましたが、下半期の登録件数は平均5.5人と、目標登録件数は達成しました。訪問ができなかった場合においては、中止だけでなく、振替での訪問などにより対応しました。しかし、感染症の影響により、振替での訪問も困難な事例もありました。今後は、部署内で人員調整を行い、柔軟な対応が出来るよう努めます。

(4) 職員の資質向上

老健主催の施設内研修、法人研修および、インターネット研修に参加し知識向上に努めました。

専門職の中でも、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、様々な職種との相談により幅広い知識を持ち、サービスの提供ができるよう努めました。

(5) 地域貢献

在宅での生活を継続できるよう、ご利用者の身体機能だけでなく、介護者の能力なども含めて総合的に援助できるように心がけました。今後も住み慣れた地域での生活が続けられるよう支援したいと考えます。

3. 訪問介護事業

(1) 訪問介護事業利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用実人数	22	23	20	21	23	21	
訪問延回数	162	164	136	146	173	158	
介護給付	131	132	108	119	140	125	
介護予防	31	32	28	27	33	33	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
利用実人数	21	20	20	21	21	20	253
訪問延回数	131	140	142	154	123	123	1,752
介護給付	90	100	100	106	76	68	1,295
介護予防	41	40	42	48	47	55	457

(2) サービスの質

少人数の体制でケアハウスを中心にサービス提供が円滑に効率よくできるように日々努力しました。ご利用者の予定に応じて、柔軟に訪問曜日や時間の変更等の調整をさせていただくなど、少人数体制で事業運営が出来る様に努めています。

また、ご利用者の生活様式や身体状況を十分に把握することにより、必要時にはケアマネジャーにケアプラン内容の変更を提案するなど、ご利用者の自立支援に努めました。

職員の資質向上が直接サービスに影響するため、学びを継続しつつ、ご利用者へは親切・丁寧なサービス提供ができるように今後も努めていきます。

(3) 安定した収入の確保

常勤職員と他事業所との兼務の職員で、常勤換算2.5名を確保して運営しました。効率的な事業運営により、今後も業績が向上するように努力していきます。

(4) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症対策により研修機会が制限される中で、ヘルパー会議での討議や法人のインターネット研修を利用することで各職員の知識・介護技術の向上に努めました。

今後も研修の充実を図るとともに、報告・連絡・相談をしっかりと行い、職員間の情報や技術の差が生じないように努めていきます。

(5) 地域貢献

住み慣れた居場所でその人らしい在宅生活が維持出来る様に、各機関と十分に連携を取りながら、今後も質の高い訪問介護サービスを提供していきます。

4. 居宅介護支援事業(ケアプランセンター・居宅介護支援事業所はぎの里オアシス)

(1) 年間計画作成件数

①はぎの里ケアプランセンター

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
居宅介護支援件数	45	39	40	39	37	34	
前年度比	-2	-8	-9	-8	-11	-12	
介護予防支援件数	19	19	20	20	18	20	
前年度比	-7	-4	-3	-2	-4	-2	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護支援件数	76	74	82	75	76	72	689
前年度比	+26	+24	+38	+35	+35	+28	+46
介護予防支援件数	37	38	38	38	39	38	344
前年度比	+14	+15	+15	+15	+17	+17	+71

②居宅介護支援事業所はぎの里オアシス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
居宅介護支援件数	43	42	42	44	44	40	255
前年度比	-3	-3	-3	-2	-2	-4	-17
介護予防支援件数	20	19	18	17	17	17	108
前年度比	+9	+8	+7	+6	+5	+4	+39
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護支援件数	事業所休止						255
前年度比	事業所休止						-17
介護予防支援件数	事業所休止						108
前年度比	事業所休止						+39

(2) サービスの質

令和4年9月末で居宅介護支援事業所はぎの里オアシスを休止しました。10月からのはぎの里ケアプランセンターを拠点として、実施地域を日吉町、園部町とし新たな体制でスタートしました。利用者やご家族に混乱や不安を感じてもらわないよう、またサービス提供事業所にご負担とならないよう、準備や説明を丁寧に行いました。

ご利用者やご家族とは、今年度も新型コロナウイルス感染症の対応や予防に配慮した関わりとなりました。ご利用者の中には感染症の罹患や、濃厚接触者となられたために、サービス利用に制限を受ける方もみられたことから、できる限りの支援を調整しましたがサービスの限界を感じることもありました。また、ケアマネジャー自らも、感染対応を実施しながら支援にあたることもあり、それらの経験から感染予防について学びを深めることができました。

(3) 安定した収入の確保

下半期に、法人内の居宅介護支援事業を1カ所にし、これまで2事業所に2名ずつ配置していた介護支援専門員を3名にして効果的な運営ができるように努力しました。

日吉町を拠点に日吉・園部を実施地域として活動することは、対象地域が広範囲になり移動時間などに非効率さを感じることもありますが、今後の高齢化率等を考えると日吉町だけではなく園部町のニーズも拾い上げ支援することが、法人全体にも効果があると考えています。

居宅介護支援事業の収入源には限度があり、安定した収益の確保は難しい側面がありますが、法人理念に基づいた支援を今後も継続していきます。

(4) 職員の資質向上

下半期からは介護支援専門員が3名になりましたが、いずれも主任介護支援専門員の資格を有しており、次年度以降順次、更新研修を受講する予定です。更新研修の受講要件を満たすために、法人外で実施される研修の企画立案、法定外研修の10時間以上受

講、介護支援専門員実務研修実習の受入れ等を行い、専門職として求められる技術の習得に励みました。

事業所会議を毎月実施して、研修の開催や困難事例の検討、毎月の運営基準減算が生じていないかの確認等を行いました。また、感染症等により一時的に職員が出勤できない場合は、他の職員でフォローし業務が継続できるように担当者以外の情報共有を行い、実際にそのような場面が起きたときにスムーズに対応することができました。

次年度も、ご利用者やご家族にとって最善の支援を考えて実践する中で技術を習得し、そこで学び得たことを事業所内で共有することにより事業所力の向上に努めます。

(5) 地域貢献

今年度も、新型コロナウイルス感染症が影響し活動内容が制限される中でしたが、認知症カフェ（おれんじスポットひよし）に参加し、送迎協力や当番月には企画を担当しました。また、地域で取り組まれた徘徊模擬訓練にも参加して協力ができました。

施設近辺の清掃活動に参加しました。

地域貢献の機会は限られますが、業務を行う中で地域課題について考え、それらを発信して地域づくりに貢献することも私たち介護支援専門員の役割だと考えます。

今後も日吉町、園部町の方々に気軽に相談していただける事業所となるよう、地域の方々との繋がりを大切にしていきたいと考えています。

VIII. 地域密着型サービス

1. デイサービスセンター

(1) 利用実績 利用定員18名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	417	405	392	408	438	435	
1日平均	16.7	15.0	15.1	15.7	16.2	16.7	
稼働率 (%)	92.7	83.3	83.8	87.2	90.1	92.9	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	454	445	444	353	429	431	5,051
1日平均	17.5	17.1	17.1	14.7	17.9	16.0	16.3
稼働率 (%)	97.0	95.1	94.9	81.7	99.3	88.7	90.5

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
明治国際医療大学 看護学部 「看護総合・統合実習」	7/12(火)～7/14(木)	13(13)名
明治国際医療大学 看護学部 「人々の生活を知る実習」	9/14(水)～9/15(木)	12(12)名
南丹市立殿田小学校 施設内見学学習(オンライン)	11/2(月) (13:30～14:30)	職員2(2)名
南丹市立殿田中学校 職業体験学習	11/15(月)～11/17(水) (8:30～17:30)	2(2)名
		29(29)名

(3) ボランティア等受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

個別ケア(自立支援)の充実に向け、サービス担当者会議への出席や書面による情報提供・照会、個別カンファレンスを通じた多職種との連携を行い、ご利用者、ご家族の思いを取り入れた介護計画の作成や必要に応じた変更を行いました。

12月に介護サービス第三者評価を受診し、評価点のほかアドバイスを頂き改善点が明確になりましたので、次年度は改善に向けた取り組みを行います。

昨年度より開始した機能訓練(リハビリ)はご利用者から好評であり、ご家族や居宅介護支援事業所からも評価を頂き、はぎの里デイサービスの大きな特色となりました。

施設内行事は、感染症基本対策の実施が必要な中で規模の縮小や内容を工夫して実施しました。外出行事である誕生日外食は前年度同様実施出来なかったため、事業所内で誕生日会を開催しケーキでお祝いしました。記念品として色紙と今年度から職員手作りのフォトブック(ご本人の写真集)を贈呈しました。

新たな取り組みとして機関紙「輪(わか)」を2ヶ月に1回の頻度で発行し、ご利用中のご様子をお伝えしました。また、事業所独自パンフレットもリニューアルし関係機関へ配布しました。

次年度も、日々の関わりやご利用者アンケートなどから届いたご利用者・ご家族、地域の声をサービス提供(内容)に反映させ、選ばれるデイサービスを目指します。

(5) 安定した収入の確保

収入面では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、1日平均17名以上の目標に対して、一日平均16.3(前年度比-1.1)名・稼働率:90.5(同-6.1)%となり、目標を達成する事が出来ず収入も減収となりました。職員の新型コロナウイルス感染に加え、積雪による休業、ご利用者の入院・入所・中止が重なり、実績を上げることが出来ませんでした。

引き続き振替・臨時・増回利用のサービス調整、居宅介護支援事業所への空き状況の情報提供を行い、パンフレットや機関紙「輪(わっか)」も活用したご利用者確保に努めます。

支出面においては、人件費の増額もありましたが、送迎の効率化、ご利用者がおられない時間帯の節電などの光熱水費の節約を意識して経費削減に努めました。

予算の執行については、優先順位を付けて収入に応じた予算執行を行いました。

(6) 職員の資質向上

職員個々の資質向上に向けて前年度より取り組んでいる業務振り返りシートを活用して日々の振り返り、1ヵ月・半期の経過振り返りを行い資質向上に努めました。

学びの機会として、事業所内勉強会を毎月開催するとともにインターネット研修を活用しながら、デイサービスでは経験出来ない重度のご利用者への対応についての研修も実施しました。

感染症については、感染症対策委員会に出席して各事業所の状況・対策を共有し、デイサービスでの対策を検討しました。

外部研修として、南丹市の通所介護部会、京都府高齢者福祉研究会、消費者被害防止研修などに参加しました。

機能訓練(個別リハビリ)では、多職種と情報共有を重ねながらご利用者の身体状況や動作能力を定期的に評価することにより、ご利用者の状態に応じた内容に変更することに努めました。

(7) 地域貢献

今年度は、明治国際医療大学看護学部、殿田中学校職業体験学習、オンラインで殿田小学校施設見学の受入れを行いました。

運営推進会議は2年ぶりに集合開催となりましたが、顔を合わせての会議の良さを改めて感じました。

家族交流会を初めてオンラインで開催して、ご利用中の様子を映像で見て頂いたほか介護についての悩み相談の場を設けました。映像の中ではありましたが、ご家族同士の交流もできて好評でした。

今後も少しでも多くの地域の方や実習の受け入れが出来るよう検討します。

2. ふれあいホーム

(1) 利用実績 登録定員25名(通い10名・泊まり3名)

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

(2) 実習・その他受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) ボランティア等受け入れ状況

名 称	活動内容	月 日	延べ人数
波多野錦綴織り工房	施設外周掃除	毎月末	48名
			48名

(4) サービスの質

送迎等の際にご利用者・ご家族からご意見やご要望をお聞きした時は、管理者とリーダー・職員で情報共有を行い、ミーティングや申し送りノートの活用、職員会議等で検討して迅速に対応することができました。

事業所自己評価に基づく外部評価を受け、職員自身の振り返りと運営推進委員の忌憚ない意見を頂戴することができました。

次年度は頂戴した意見をもとに、事業所全体の質向上に努めていきます。

(5) 安定した収入の確保

登録者は3名となっています。新規利用者の獲得に向けて運営推進会議で新規利用者募集のチラシの配布の助言をいただき、各区の御協力により殿地区の各戸に配布して頂きましたが新規利用者の獲得には至りませんでした。

これからも新規登録者を増やすための対応を考えていきます。

(6) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、積極的な外部研修の参加はできませんでした。小規模多機能型居宅介護事業所オアシスと合同で研修計画に沿った研修を行うことができました。インターネット研修については、一部の職員の参加となっており、次年度は積極的に参加できるよう計画的に実施します。

(7) 地域貢献

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、地域ボランティアの方には事業所外周の掃除を毎月行っていただきました。防災避難訓練・火災訓練では、屋外での消火器使用訓練をご利用者、職員と一緒にボランティアの方にも参加していただきました。

次年度は地域に根ざした事業所として、地域の方に喜んで頂けるような企画等を検討していきます。

3. 小規模多機能型居宅介護事業所はぎの里オアシス

(1) 利用実績 登録定員18名(通い9名・泊まり7名) 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	9	9	8	9	9	9	10	10	9	9	8	8

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
明治国際医療大学看護科実習	9月14日～15日	6名
		6名

(3) ボランティア等受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

送迎等の際にご利用者・ご家族からご意見やご要望をお聞きした時は、管理者とリーダー・職員で情報共有を行い、ミーティングや申し送りノートの活用、職員会議等で検討して迅速に対応することができました。

接遇面については、声の大きい職員やご利用者に配慮できていない場面ではリーダーから指導を行いました。

事業所自己評価に基づく外部評価を受け、職員が自ら日々の取り組み内容を振り返ることができました。また、運営推進委員に率直な意見を頂くことができました。そのご意見を参考にして今後の事業運営に生かしていきます。

(5) 安定した収入の確保

10名の目標に対して平均8.9名の登録となっており厳しい運営でした。特に冬季は入院が増え利用減少となったことから、地域包括支援センター・医療機関・居宅介護支援事業所などに定期的に声掛けをしました。その結果、他機関から利用者の紹介がありました。送迎時間が長くなることで対象者の身体的負担となることから利用につながりませんでした。

次年度は登録者数10名を確保するために引き続き各種関係機関に声掛けを行っていきます。

(6) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症予防対策のために、外部研修は認知症介護実践者研修に1名が参加するのみでした。毎月のふれあいホームとの合同職員会議では、計画的に研修を行うことができました。また、オアシス全体研修に参加した職員が伝達研修することもできました。インターネット研修も行いましたが、個別テーマに沿った研修の受講が行えていないことがあり、次年度は個別研修に力を入れて実施していきます。

(7) 地域貢献

地域の認知症の方や介護の相談窓口として認知症あんしんサポート窓口の登録をしています。

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、ボランティアの受け入れはできませんでした。また、地域の方々と交流することができませんでした。

横田区の環境美化作業に参加することで、多少は地域住民との交流を行うことができました。

4. 特別養護老人ホームはぎの里オアシス

(1) 利用実績

①長期入所定員20名（1ユニット10名）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	19.5	20.0	19.3	20.0	19.8	19.6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	18.4	17.6	18.0	17.6	17.8	18.8	18.9

②長期入退所状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	2	2		1			
退所先		2				3	

(2) 実習・その他受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) ボランティア等受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

介護計画の実施状況を記録し、現状と照らし合わせて定期的に見直しを行いました。また、介護計画の内容に反映できるようご利用者ご家族と積極的に関わりを持つように努めました。新型コロナウイルス感染予防対策のため外出や面会が自由にできない状況が続きましたが、楽しみのある生活の提供に向けて対策を講じながらユニット合同の行事（花見ドライブ、敬老祝賀会、横田区打上花火鑑賞など）を開催しました。対面面会を制限している期間は、タブレット（ご家族数組とご利用者をグループLINEで繋ぐ）や電話・メールを活用した情報提供に努めました。

事故防止の取り組みとして、継続的にご利用者の生活環境や見守り方法、介護の方法の見直しを適宜行い、全職員への事故リスクを周知することで事故防止に努めました。

ご利用者・ご家族の想いに寄り添った看取り介護を行うために、ご利用者を知ることから始め、「看取りとなるまでのケアを見直す」という目標についてはまだ課題があり

ますが、ご利用者を中心に考える視点に基づいてアセスメントを行いました。よりご利用者に添ったケア内容に適宜変更できるようユニット職員間、多職種間での意見交換を継続し、看取りとなった場合にも繋がっていくように努めました。

(5) 安定した収入の確保

入退院、退所（永眠）、感染症発症が重なり、10月以降の稼働率が90%前後を推移しました。今年度の稼働率実績は94%と昨年より-2ポイントとなりましたが、空床期間の短縮化に努め、収入確保に向けた効率的なベッドコントロールを行いました。

また介護職員の夜勤体制の見直しを行い、夜勤一人体制とすることで人件費の削減を行うことができました。

排泄用品、日用品の使用頻度の再確認を行い、使用していない居室のこまめな節電などコスト削減を意識した取り組みを心がけました。

(6) 職員の資質向上

年間計画に基づき、看取り介護、事故防止年2回、虐待防止・身体拘束廃止年2回、感染症対策年2回、褥瘡予防、安全運転、認知症等の施設内研修を実施しました。

研修は計画的に実施できましたが、全員参加が勤務上難しく欠席者への伝達に課題を残しているため、確実な伝達方法を検討し、全職員が同じレベルで利用者ケアを実践できるように努めます。

(7) 地域貢献

運運営推進会議は、令和4年12月のみ書面開催となりましたが、その他の月は感染予防対策を講じながら、横田区各団体の代表者の方々・ご利用者のご家族・行政担当者の集合により実施できました。

会議ではスライドでの写真や動画により事業所の取り組み等を知っていただくことに努め、スライドを見ながら意見を下さる委員もありました。今後も感染拡大防止に配慮しながら開催していきます。

また横田地区の美化清掃やとんど等にも一部職員が参加し、交流もさせていただきました。今年度も地域の方が自由に施設内を出入りしていただくことは難しい感染状況でしたが、今後も可能な限り地域とのつながりや交流の機会を模索していきたいと考えます。

5. 認知症対応型共同生活介護事業所はぎの里オアシス

(1) 利用実績

①入居定員18名（1ユニット9名）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	16.9	17.6	17.0	17.0	17.7	18.0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(月平均)
月平均入所者数	18.0	17.2	15.4	14.1	15.8	15.4	16.7

②入退居状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	1	1					
退所先				1		2	

(2) 実習・その他受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) ボランティア等受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

感染予防対策により外出やボランティアの受け入れ等に制限がある中、少しでも季節感を味わっていただける行事や雰囲気づくりに努めました。

花見ドライブでは、他の花見客との接触を無くし、車内の換気や消毒を徹底したうえで実施しました。

夏の納涼祭では、ご利用者に法被を着ていただき夏祭りらしい雰囲気を楽しんでいただきました。

秋には横田区の打ち上げ花火の観賞や季節ものの焼き芋なども味わっていただきました。

冬は、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により、ご利用者・ご家族そして職員には非常に大きな負担と不自由な期間となりましたが、2月の節分行事では、豆まきで厄を払いました。

年度末には、気候の温暖化から4月を待たずに花見に出かけることができました。

面会を望まれるご家族の声が多くありました。面会制限がある中でご利用者の様子を伝えるのが難しいため、定期的な電話連絡や昨年度より配布しているグループホーム新聞を活用して、施設での様子が少しでも伝わるように努めました。

(5) 安定した収入の確保

上半期は、1名のご利用者の2カ月程度の入院のみで、高稼働率となりましたが、下半期は、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生や骨折事故、他の疾患による

による入院、さらには入院・入居中の逝去により大きく稼働率が低下したことで、大幅な減収となりました。

物価や光熱費の高騰に対しては、必要物品購入は精査するとともに特に節電には意識して取り組み経費削減に努めました。

収入確保のためにはまず稼働率を上げることが重要であり、普段からご利用者の体調の変化を観察して早期の受診に結び付けることで入院が長期化しないように努めます。また、空床期間を短縮するためには円滑な入居が必要であり、各種関係機関への働きかけを積極的に行うことで入居待機者の確保に努めます。

(6) 職員の資質向上

新規採用職員への指導、各職員への面談等を中心に資質向上に努めました。個々の職員の力量に沿った指導や助言をすることで資質向上を目指しました。また個々の得意分野を伸ばせる業務体制を整え、働きやすい環境づくりに努めます。

研修については、依然として積極的に外部研修を受講できる環境にはなく、施設内で年間研修計画に基づき実施しました。課題としては、研修受講後の他の職員への伝達が不足していることにより、学んだ知識技術がサービスに反映しにくい状況があることから改善に取り組みます。

一方では、法定研修の確実な修了や資格研修である認知症介護実践者研修の修了者もあり、現場での実習が認知症ケアに役立つように取り組みました。

また、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による対応経験は、大きな負担でしたが、職員にとって非常に貴重な経験であり、今後の感染症対応につながるものであり、引き続き知識や技術の維持に努めます。

(7) 地域貢献

感染症予防の観点から地域との繋がりは希薄な状況となりました。

運営推進会議では、施設内の見学をしていただくことができず、様子を伝えることが難しい中、写真や動画を交えて施設の様子を伝えしました。運営推進会議における外部評価を通じて、現段階で取り組める地域貢献の方法を模索していきます。